

# 地域福祉活動計画中間報告

## 活動計画の論点

### 策定委員会での4つの視点

#### 1 新しいコミュニティづくり

高齢者等のコミュニティづくりや、新しく東区民になった人たちが、関心を持つ取り組みを行う

#### 2 次世代とともに歩む地域福祉活動

次世代を担う「子どもたち」を巻き込んだ活動を行う

#### 3 社会福祉施設との連携活動

専門性を持つ社会福祉施設と連携を取り、より具体的に効果的な福祉活動への取り組みを行う

#### 4 新しい地域福祉活動の担い手づくり

地域で活動をしている人たちの固定化による負担の増加や、高齢化による慢性的な担い手不足。この課題を乗り越えるため、幅広く新たな担い手づくりを行う

### 住民座談会「福祉をかたろう」での主な意見

#### 1 焦点を絞った実現可能な計画づくり

総花的な計画では、焦点がボケてしまうため、現実実践できるよう、的を絞ってまとめてほしい

#### 2 地域に根付き、密着した計画づくり

計画の対象は地域住民なので、実践に移す時は地域に密着する事が不可欠。地域に根付き、地域を取り込まないとせっかくの計画が空論になってしまうので、そうならないようまとめてほしい

#### 3 「ともに生きる」を大切にした啓発活動を充実する計画づくり

「ともに生きる」意味を考えることの重要性については、動き始めたばかりなので、計画に積極的に取り入れて欲しい

#### 4 ふれあいや交流を盛り込んだ事業計画づくり

障害者や高齢者について理解するには、実際に体験して触れ合う事が大切。また、核家族化が進んでおり、子どもたちが高齢者との接し方を知らない。子、親、高齢者、障害者が交流を通じて色々な事を学ぶ計画にしてほしい。

# 地域福祉活動計画 ワーキンググループ概要

いま、地域には...

- ・ひとり暮らしの高齢者がいる
- ・高齢者だけの世帯がある
- ・虐待を受けている幼児がいる
- ・身体の不自由な人がいる
- ・生きがいを見失った人がいる
- ・子育てに悩む親がいる
- ・近所なのに知らない人がいる

いま、地域には...

- ・ゴミや空き缶がいっぱい
- ・子どもたちには危ない場所がある
- ・歩きづらい歩道がある

**高齢者・障害者分野 「共生ひがし」**  
ひとり暮らしの高齢者や高齢者夫婦世帯、障害者を地域で見守り支えるにはどうしたらよいかを考えます

**子育て分野 「すくすく」**  
子育てに悩む親たちの支援とネットワークづくり、虐待を受けている子どもたちの問題を考えます

**ひとにやさしいまちづくり分野 「ひと まちづくり」**  
車いす利用者等ハンディを持つ人たちにも、やさしく暮らしやすい地域づくりを考え、型と心のバリアフリーを進めるため、私たちに何ができるか、何をやらなければいけないかを考えます

# 地域福祉活動計画中間報告

## 私たちが感じた4つの課題

1 必要な福祉に関する情報があまり届いていないのでは？

2 気軽に集える場が、地域にあまりないのでは？

3 「ともに生きる」ことを大切にしたい啓発が十分ではないのでは？

4 地域福祉活動を行う人があまりいないのでは？

# 地域福祉活動計画中間報告

## 課題について、こんな対応を考えています

### 1 必要な福祉に関する情報があまり届いていないのでは？

高齢者や障害者、子育て支援など、様々な施策や事業が行われていますが、その対象者に対して、必要な情報が伝わっていないのではないのでしょうか？

私たちは、必要とされる人すべてに、必要な情報が届くしくみを考えます。

#### A 情報の発信を行う拠点をつくろう

行政情報、社協、地域団体の様々な情報を集約し、発信する場（ネットワーク）をつくります。

#### B 福祉なんでも110番をつくろう

困った時にどこに相談すればよいか道案内してくれる「総合案内所」をつくります。

#### C 情報収集、発信する人材を育てよう

拠点で集まった情報を取りまとめ、情報誌やインターネットでの情報発信、また、近隣の人が回覧板の読み聞かせを行うなど、情報のエキスパートを育てます。

#### D 全ての人に情報が行き渡るしくみをつくろう

情報を集約して、地域に密着した情報誌づくりやインターネットの活用、既存の広報を点字、音声、拡大文字にするなど、みんなに情報が伝わるしくみをつくります。

#### E 情報を伝えてくれる地域スポットをつくろう

地域のスーパー、病院、郵便局などに、情報誌を置いてもらうなどの協力を依頼し、色々な場所で情報が手に入るようにします。

# 地域福祉活動計画中間報告

## 課題について、こんな対応を考えています

### 2 気軽に集える場が、地域にはあまりないのでは？

都心部ならではの課題かもしれません。生活様式が大きく変化する中、ご近所で「井戸端会議」を通じて、住民同士の情報交換ができる場があまりありません。

私たちは、家の近所で、様々な話ができる場づくりを考えます。

#### A まちの「たまり場」をつくろう

家の近所で、地域に住む様々な人が気軽に集い、語らう場をつくり、情報交換を行う事によって、日頃の悩みなどの解決ができるような場をつくります。

#### B ご近所ネットをつくろう

近所であいさつや声かけを通して、さりげない見守り活動ができるしくみをつくります。また、引きこもりがちな人を把握するため、自分から申請するような仕掛けづくりに取り組みます。

#### C 地域で子どもを見守ろう

地域に住んでいる子どもは、地域の宝です。地域住民はもちろん、子どもたちがよく行くコンビニ、ゲームセンターなどに働きかけ、地域で見守り、地域で子どもを育てるしくみをつくります。

#### D みんなが集えるサロンをつくろう

高齢者や障害者、子育て中の親子、学校帰りの子どもなど、みんなが集まるサロンを区内に数ヶ所つくります。

#### E 「拠点」をつくろう

いろいろな企画を考えたり、情報誌を作ったり、ボランティアの活動の拠点となる場所を、区内に数ヶ所つくります。

# 地域福祉活動計画中間報告

## 課題について、こんな対応を考えています

### 3 「ともに生きる」ことを大切にしたい啓発が十分ではないのでは？

「ともに生きる」意味を正しく理解するために、あらゆる手段で啓発をしなければなりません。私たちは、効果的な啓発の方法を考えます。

#### A 学習会、研修会等を通じて啓発しよう

学習会・研修会を通じ、自ら体験する事により障害者や高齢者への理解、子育てについて学びます。

#### B 文化施設を誰もが楽しめるようにしよう

点字・字幕・スロープの設置など、誰もが文化に親しめるような施設づくりを提案します。

#### C 誰もが参加できる企画づくりをしよう

手話、要約筆記、字幕、点字、車イスへの配慮など、誰もが参加できる企画づくりを提案します。また、参加する人の視点に立った誰もが主役になれる企画づくりをします。

#### D 障害者と一緒にまちを探検しよう

小・中・高生と障害者が共にまちを探検、点検する「バリア探検隊」を結成します。

#### E 地域で楽しく子育てについて学ぼう

親子料理教室など、父親も参加しやすく、子どもの視点に立って、子育ての楽しさを学びます。

#### F 親を育てる学習会を開催しよう

小学生から若い親までを対象に、子育ての疑似体験教室を実施し、これから親になる人が子育ての大切さ、楽しさを学びます。

#### G 公共施設の職員研修に福祉体験を盛り込もう

公共サービスに携わる職員に、車イス、アイマスクの体験を通じて、高齢者・障害者への理解を深めてもらい、業務に活かしてもらいます。

#### H 困っている人が伝えよう

まちの現状を調査し、障害者等がまちで困っていることをまとめ、障害者が講師となった啓発（マナーアップ）講座を開催します。

# 地域福祉活動計画中間報告

課題について、こんな対応を考えています

## 4 地域福祉活動を行う人があまりいないのでは？

地域福祉活動を行う人が固定され、多くの活動を担い負担が増大しています。また、高齢化により、担い手が不足しています。

私たちは、新たな担い手の発掘と育成を考えます。

### A 地域福祉プロデューサーを養成しよう

社会福祉協議会と協働で、様々な事業の企画を考える「仕掛け人」を養成します。

### B 共生ボランティアバンクをつくろう

自分ができることでお手伝いをして、共に支えあっていくために、隠れた逸材の発掘や人材の養成を行うしくみをつくります。また、興味があること、得意なことを登録し、その特性を活かした地域福祉活動の担い手として活動します。

### C 人材確保のための新しいしくみをつくろう

無償のボランティアでは、人材の確保に限界があるため、新しいしくみを考えます。